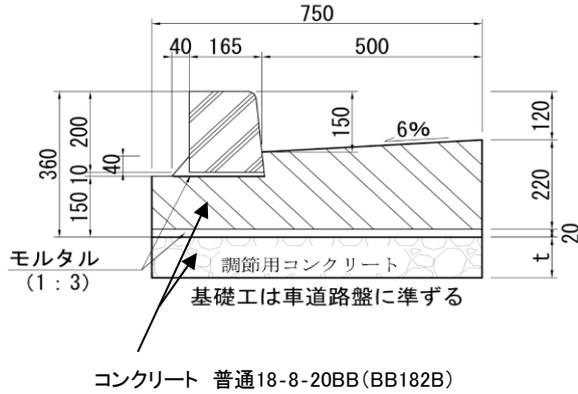


街 ぎ よ

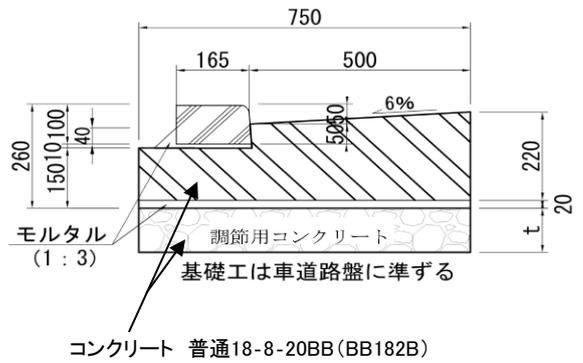
街きよ (155型 一般部)

(段差15 cm)



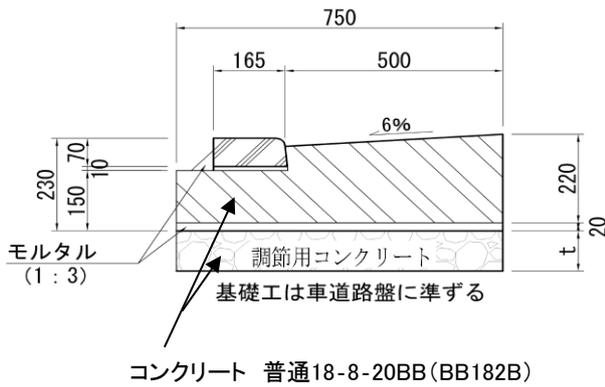
街きよ (155型 乗入部)

(段差5 cm)



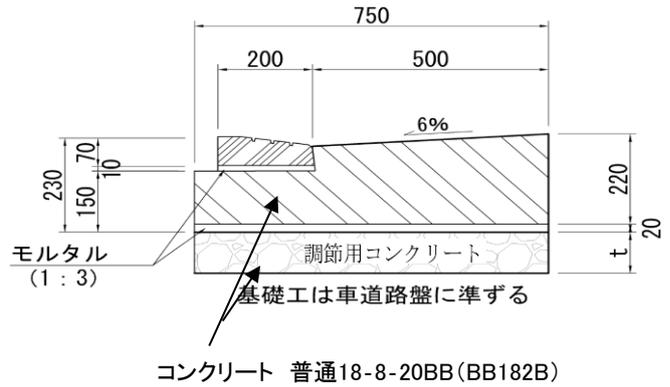
街きよ (155型 乗入部)

(段差2 cm)



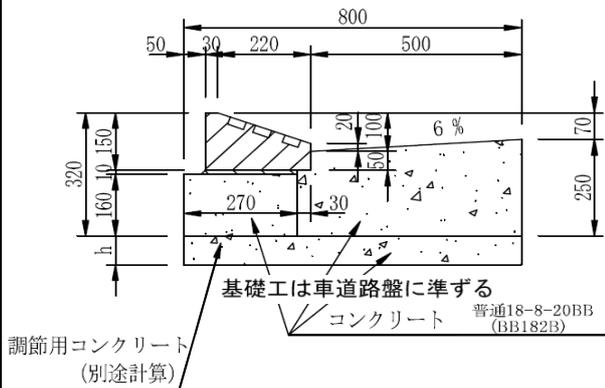
街きよ (155SF型 横断部)

(段差0 cm)



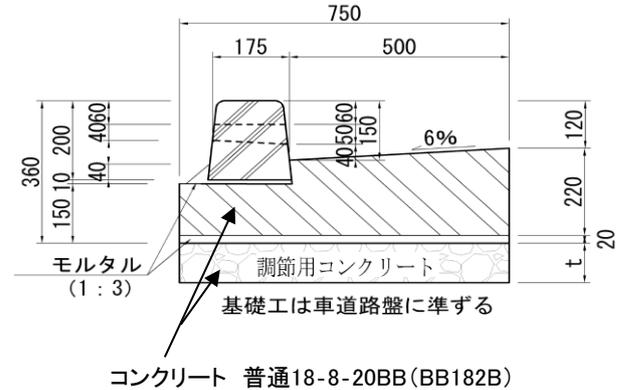
街きよ (155-1型 乗入部)

(段差2 cm)



街きよ (155SF型 一般部)

(段差15 cm)

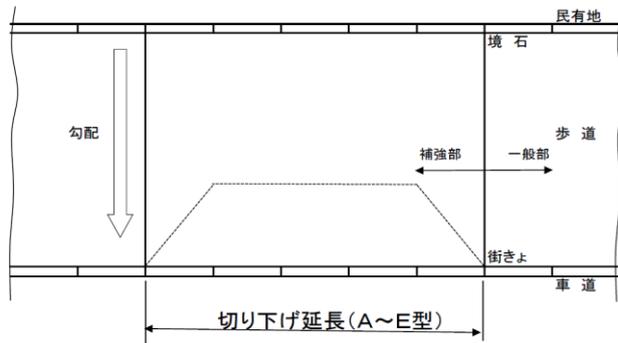


- 注 1. 各ブロックの間には、目地モルタルを施すこと
 2. エプロンブロックは、すべり止め加工タイプを使用すること

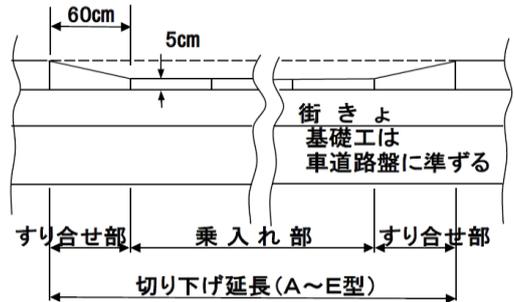
歩道切り下げ部(平面図・正面図)

(1)街きよブロック155型の場合

平面図

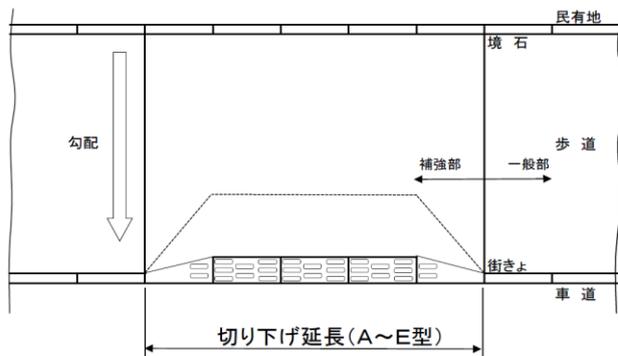


正面図

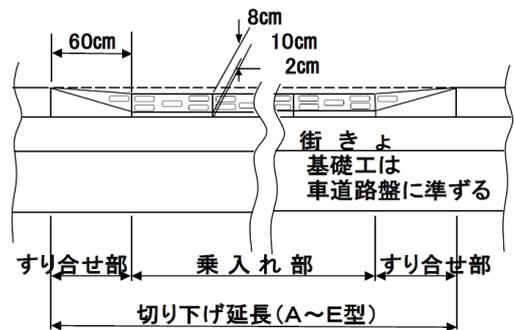


(2)街きよブロック155-1型の場合

平面図

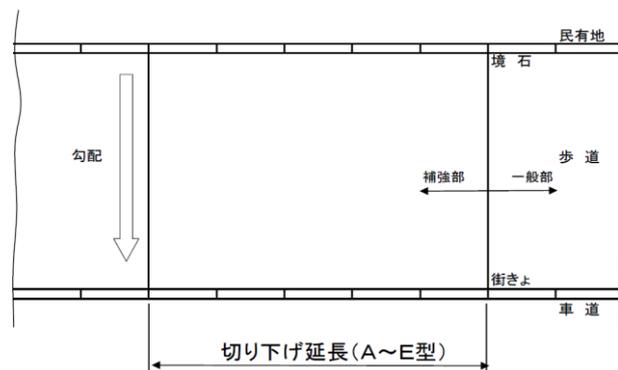


正面図

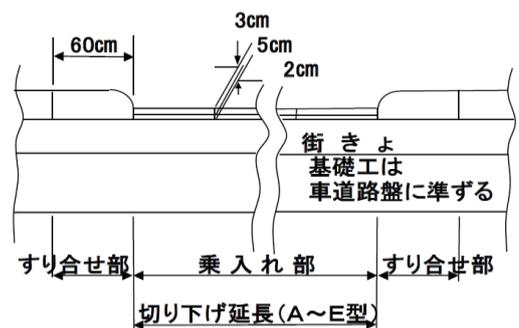


(3)街きよブロック155セミフラット型の場合

平面図



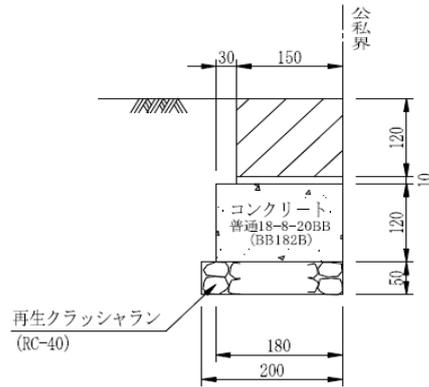
正面図



形式	切り下げ延長(cm)	収容施設の種別(参考)
A型	303	軽自動車を収容する施設(例 軽自動車)
B型	424	小型乗用車(8の一部及び4, 5, 6ナンバー)及び普通乗用車(3ナンバーの一部)を収容する施設(例 普通乗用車)
C型	545	小型乗用車(8の一部及び4, 5, 6ナンバー)及び普通乗用車(3ナンバーの一部)を収容する施設で前面道路が狭い場合(例 2t~4tトラック)
D型	727	普通乗用車(3, 8ナンバーの一部及び1, 2ナンバー)を収容する施設(例 大型トラック)
E型	-	特殊な場合

境石工

境石工(一般部)



(注)各ブロックの間には、目地モルタルを施すこと。

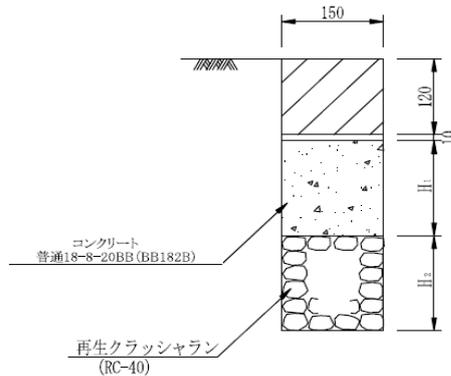
材 料 表

(100m当り)

品 名	形 状 寸 法	単 位	数 量	摘 要
再生クラッシュラン	RC-40	m ³	1.0	
コンクリート	普通18-8-20BB (BB182B)	#	2.2	
モルタル	1 : 3	#	0.2	
コンクリートブロック	150×120×600	本	165.0	
型 枠		m ²	24.0	

(注) 調達可能な地域においては、再生骨材コンクリートを活用する。

境石工(歩道乗入部)



(注)各ブロックの間には、目地モルタルを施すこと。

寸 法 材 料 表

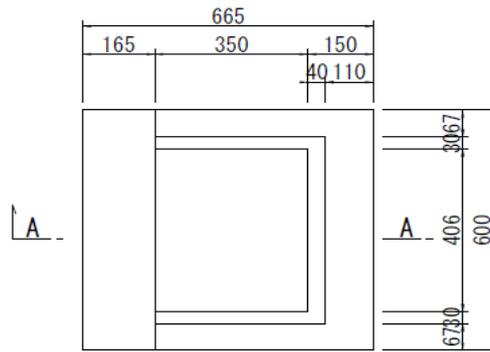
(100m当り)

品 名 種 別	コンクリート 普通18-8-20BB (BB182B)		再生クラッシュラン (RC-40)		コンクリート ブロック (本)	型 枠 (m ²)	モルタル 1 : 3 (m ³)
	H ₁ (cm)	使用量 (m ³)	H ₂ (cm)	使用量 (m ³)			
A 型	15	2.3	15	2.3	165	30	0.2
B 型	15	2.3	15	2.3	165	30	0.2
C 型	15	2.3	15	2.3	165	30	0.2
D 型	20	3.0	20	3.0	165	40	0.2

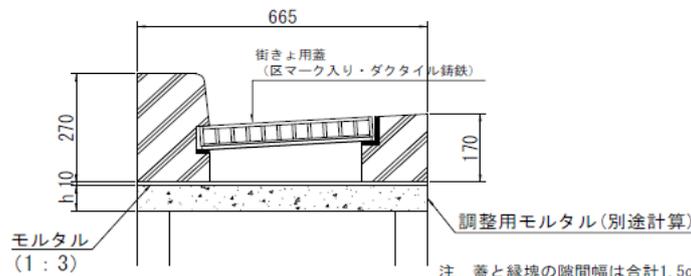
(注) 調達可能な地域においては、再生骨材コンクリートを活用する。

街きよ用集水柵上部改修(155-1型)

平面図

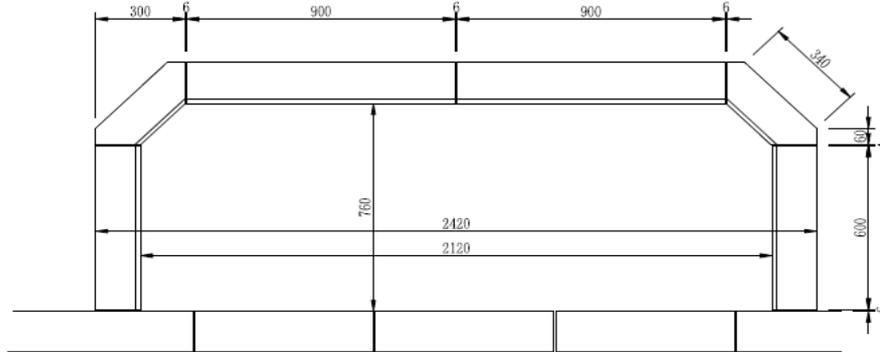


断面図[A-A]

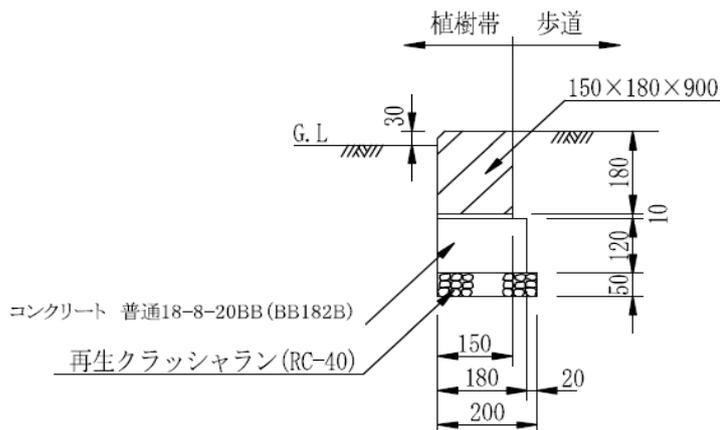


植樹柵 (T1型)

平面図

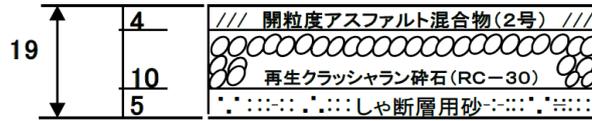


断面図



歩道舗装(一般部)

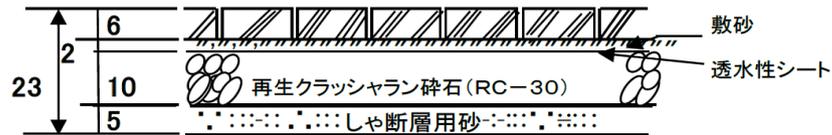
アスファルトコンクリート舗装(19型)



コンクリート平板舗装(24型)



インターロッキングブロック舗装(23型)



表層材料名 区分 名称	開粒度アスファルト混合物2号		コンクリート平板		インターロッキングブロック	
	区分Ⅰ	区分Ⅱ	区分Ⅰ	区分Ⅰ	区分Ⅱ	
表層工	4	4	透水性コンクリート平板 6 敷砂 3	透水性インターロッキングブロック 6 敷砂 2	透水性インターロッキングブロック 8 敷砂 2	
透水性シートの使用	-	-	使用	使用	使用	
路盤工 RC-30 またはC-30 (cm) ※	10	15	10	10	15	
フィルター層 しや断層用砂	(5)	(5)	(5)	(5)	(5)	
舗装合計厚 (cm)	14 (19)	19 (24)	19 (24)	18 (23)	25 (30)	

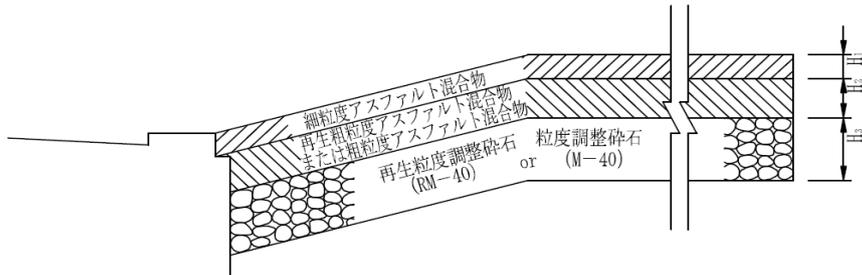
ここで、 RC-30 : 再生クラッシュラン
C-30 : クラッシュラン

- (1) 透水性シートは、60g/m²を標準とする。
 区分Ⅰ・・・歩道や自転車道で、専ら歩行者および自転車の通行を想定した場合。
 区分Ⅱ・・・公園や商店街の歩行者系道路で、歩行者や自転車以外に管理用車輛や限定された一般車輛の通行を想定した場合。

※ 原則として、再生材を使用する。
 ただし、材料の入手が困難な場合はこの限りではない。

歩道の車乗入れ部舗装構造

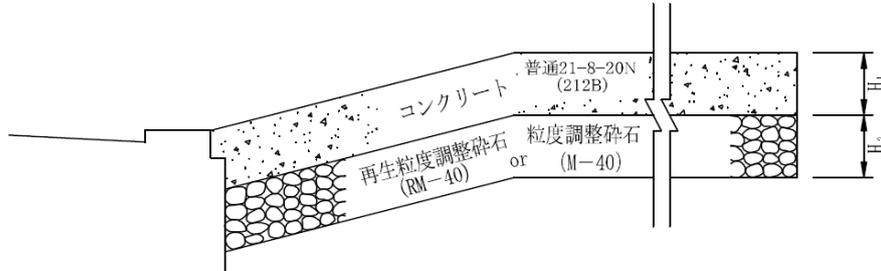
アスファルトコンクリート舗装



名称	使用材料名	A、B、C型	D型	注意事項
		舗装厚	舗装厚	
表層工	細粒度アスファルト混合物	5	5	タックコート工 (必要に応じて)
基層工	再生粗粒度アスファルト混合物 または粗粒度アスファルト混合物	—	10	プライムコート工
路盤工	再生粒度調整碎石 (RM-40) または 粒度調整碎石 (M-40)	30	35	
路床				路床転圧工

1. 歩道幅員が2.50m未満の場合も本表に準ずる。
2. E型の舗装は、特殊なものとし原則的には設置しない。やむを得ず使用の場合は別途指示するものとする。
3. 路盤上には、アスファルト乳剤 (PK-3) 1.2ℓ/m² を使用する。
4. 基層上には、必要に応じてタックコートを使用する。
5. 調達可能な地域においては、再生骨材コンクリートを活用する。
6. 原則として再生材を使用する。
ただし、材料の入手が困難な場合はこの限りではない。

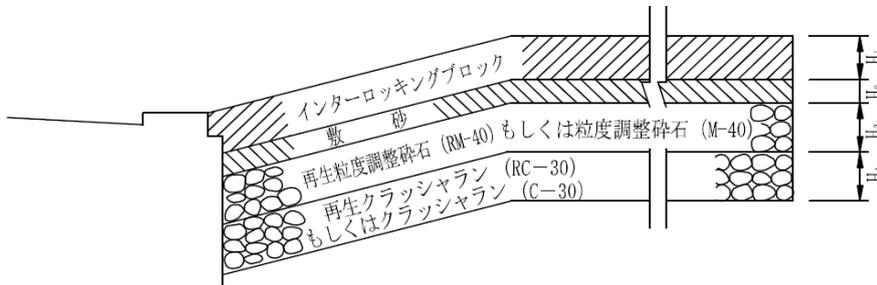
コンクリート舗装



名称	使用材料名	A、B、C型	D型	注意事項
		舗装厚	舗装厚	
表層工	コンクリート 普通21-8-20N (212B)	15	20	プライムコート
路盤工	再生粒度調整碎石 (RM-40) または 粒度調整碎石 (M-40)	15	20	
路床				路床転圧工

1. 歩道幅員が2.50m未満の場合も本表に準ずる。
2. E型の舗装は、特殊なものとし原則的には設置しない。やむを得ず使用の場合は別途指示するものとする。
3. 調達可能な地域においては、再生骨材コンクリートを活用する。
4. 原則として再生材を使用する。
ただし、材料の入手が困難な場合はこの限りではない。

乗入れ舗装30・35型 (インターロッキングブロック・コンクリート平板舗装)

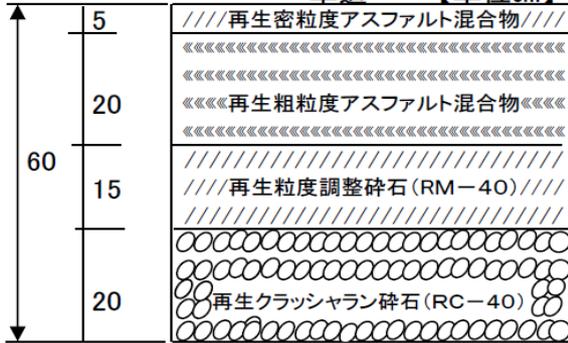


名称	使用材料名	A、B、C型	D型	注意事項
		舗装厚	舗装厚	
表層工	インターロッキングブロック	8	8	
サンドクッション	敷砂	2	2	
路盤工	再生粒度調整碎石 (RM-40) または粒度調整碎石 (M-40)	10	10	
	再生クラッシュヤラン (RC-30) またはクラッシュヤラン (C-30)	10	15	
路床				路床転圧工

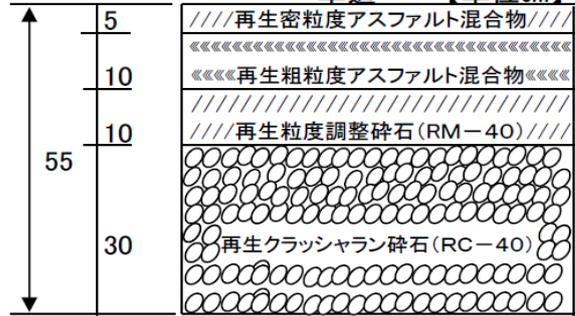
1. 歩道幅員が2.50m未満の場合も本表に準ずる。
2. E型の舗装は、特殊なものとし原則的には設置しない。やむを得ず使用の場合は別途指示するものとする。
3. 表面はハケ引き仕上げとする。
4. 路盤上には、アスファルト乳剤 (PK-3) 1.2ℓ/m² を使用する。
5. 調達可能な地域においては、再生骨材コンクリートを活用する。
6. 原則として再生材を使用する。
ただし、材料の入手が困難な場合はこの限りではない。

アスファルトコンクリート舗装(車道)

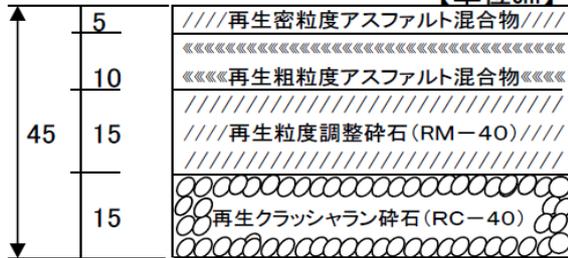
アスファルトコンクリート舗装(60型)
車道 【単位cm】



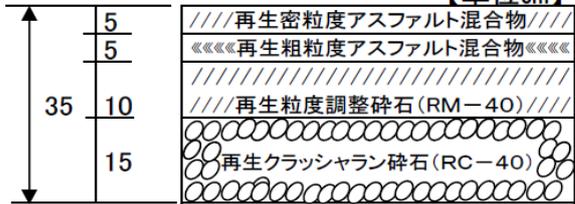
アスファルトコンクリート舗装(55型)
車道 【単位cm】



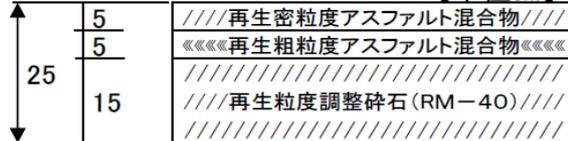
アスファルトコンクリート舗装(45型)
【単位cm】



アスファルトコンクリート舗装(35型)
【単位cm】



アスファルトコンクリート舗装(25型)
【単位cm】



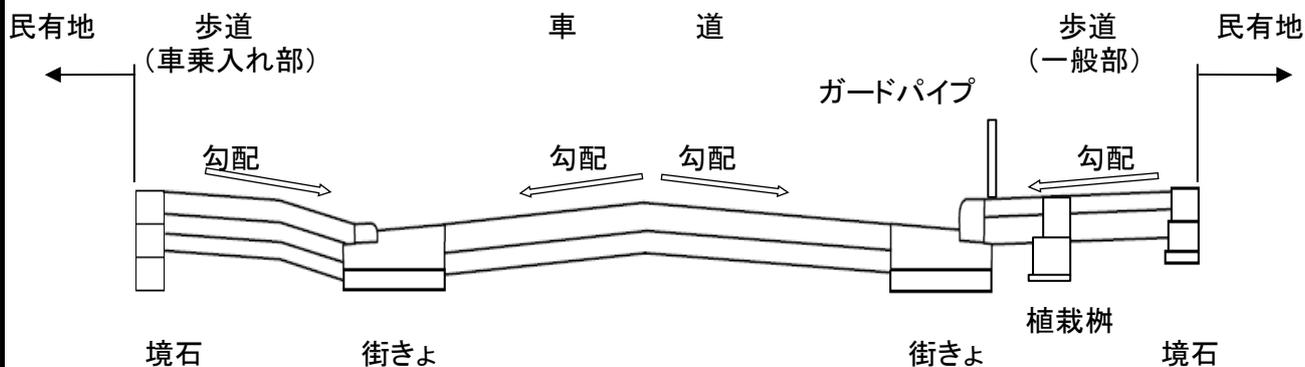
名称	使用材料名 (原則として再生材を使用する。)	区車道舗装種別(型)										注意事項
		舗装版のみ打替え(*2)				標準構造						
		5	10	15	25	25	35	45	55	60		
表層工	再生密粒度アスファルト混合物(*1)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	↓ タックコート工
基層工	再生粗粒度アスファルト混合物	-	5	10	20	5	5	10	10	20	20	↓ プライムコート工
上層路盤工	再生粒度調整碎石(RM-40)	-	-	-	-	15	10	15	10	15	15	1層仕上げ厚: 15cm以下
下層路盤工	再生クラッシャラン(RC-40)	-	-	-	-	-	15	15	30	20	20	1層仕上げ厚: 20cm以下
舗装合計厚(cm)		5	10	15	25	25	35	45	55	60		

- プライムコート工: アスファルト乳剤(PK-3) 1.2L/m²を標準とする。
- タックコート工: アスファルト乳剤(PK-4) 0.3~0.6L/m²を標準とする。
 - ・交通開放する場合
切削打替、オーバーレイなどで切削面や既設路面上に舗装する場合: 0.6L/m²を標準とする。
 - ・汚さず数日後に表層を舗装する場合: 0.3L/m²を標準とする。
 - ・アスファルト層を同日に連続舗装する場合: 乳剤散布無し

(*1) 耐流動性が求められる箇所については、改質アスファルトを使用することができる。

(*2) 不陸整正は、補足材の有無にかかわらず路盤の敷き均し転圧を行うこと。

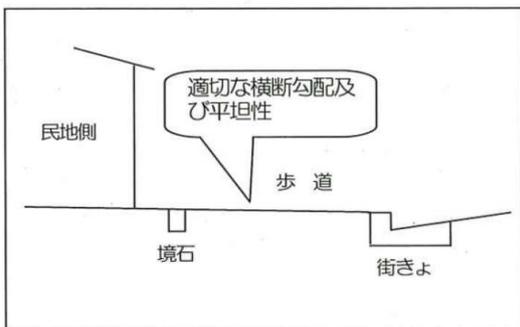
道路標準断面図



舗装復旧を行う際の注意点

良い施工例

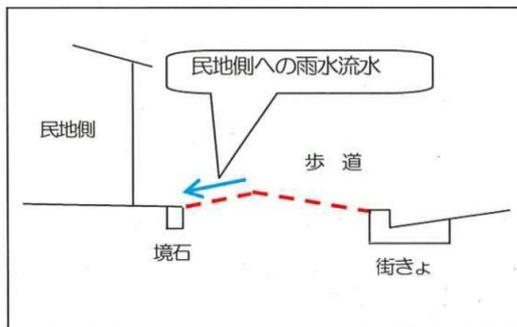
適切な横断勾配及び平坦性



悪い施工例 (1) ~ (2)

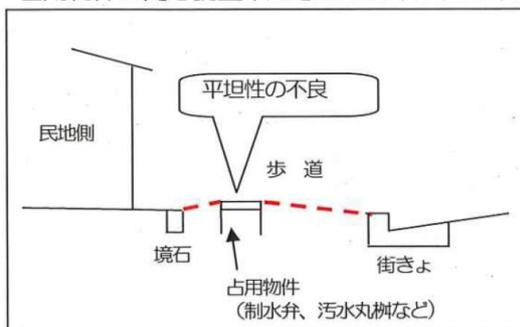
(1) 雨水流水の発生原因

横断勾配が逆勾配による民地側への雨水流水



(2) 平坦性不良の発生原因

占用物件の高さ調整不足等による平坦性の不良



(その他注意点)

- ア 境石及び街きよの舗装すり付けは、L形側溝の舗装すり付けと同様に段差、たわみ、飛散等が発生しないように注意して施工すること。
- イ ガードレール・ガードパイプ等の道路附属物を一時撤去・復旧した場合は、ボルトの緩みがないか及び向きが正しいかを必ず確認すること。